

令和2年度第3回生駒市介護保険運営協議会 会議録

- 1 日 時：令和2年7月22日（水）14：00～15：40
- 2 場 所：生駒メディカルセンター3階 研修室
- 3 出席者
- 委員：澤井 勝 高取 克彦 萩原 洋司 林 昌弘 井上 太 中尾 初美
藤田 照子 藤尾 庸子 日野 紀代子 平尾 嘉弘 竹田 幸代
稲葉 健三 和田 ちあき
- 事務局：近藤福祉健康部長 石田福祉健康部次長
高齢施策課：武元 一真 児玉 さつき 齊藤 新吾
地域包括ケア推進課：伊藤 朋子 澤辺 誠
介護保険課：吉村 智恵 福山 清美 殿水 成樹 坂本 佳奈
門脇 佳子
地域医療課：吉村 奈緒

- 1 開会
会議成立の方向（委員14名中13名出席）
- 2 案件（1）～（5）

案件（1） 会議の公開・非公開について
異議なしで公開することに決定

案件（2） 高齢者保健福祉計画及び第7期介護保険事業計画の実績について

- ①高齢対策事業の実績について
- ②介護保険事業の実績について
- ③地域支援事業の実績について

資料1、2、3により説明

◎質問・意見

委員：資料2の4ページの⑦の居宅療養管理指導に関連して、サービス付き高齢者向け住宅で入居者に対して高額な請求を行っている所があるように聞いている。介護保険料にも跳ね返るため、適正化を図って欲しい

委員：介護保険事業の通所リハビリテーションと短期入所療養介護で、特定の介護老人保健施設に対する見込み違いという理由付けをされていた。必要なサービス量の見込み違いなのか、それとも施設の認知・営業不足だったのか。

事務局：新規施設として建設されたため、その分の増加を見込んでいた。

委員：市としてニーズに応じて整備していると思うが、必要なものを必要なところに整備

していただきたい。

事務局：入所分は別として、そこでショートステイが増える見込みでいたが、1泊2日や1週間程度のものなので、その需要が少なかったという点で見込みと異なった。

委員：法人が奈良市にあるため、周知が行き渡っていないのではと思う。

資料についてだが、資料1、2、3ときれいにまとまっているが、標記方法に統一性がない。実績と計画を分けるなど統一すると分かりやすくなる。数字も同じフォントにしたほうが見やすい。

委員：資料2、資料3について、令和2年度の見込値は4月分実績を1.2倍したという説明であったが、今後利用者数と利用回数がどれくらい増えるかは不明である。2月頃から新型コロナウイルス感染症対策と本人の利用自粛や事業者側の利用制限等があり、今後の9か月では当初の計画通りの数値には戻らないと思われる。

資料1の「老人クラブ加入者数と活動内容」について、数値のみで中身が分からないが、平成28年以降、クラブ数・加入者数共に減っている。60歳以上の人口が増え大半が後期高齢者であれば、体力の低下等活動に支障が生じてくると思う。

また、民生委員は170人いるが、人が集まりにくいと聞いている。活動日数が延べ22,950日、年間135日である。これは170人の平均なので、多い人はもっと活動しているとなれば、かなりの負担である。

委員：老人クラブの会員数は本市だけでなく全国的に減少しており、全国老人クラブ連合会でも会員増強運動等毎年活動されている。本市は自主学習グループが大変盛んであることから、老人クラブが減ったのではないかと聞かれている。今の高齢者は情報も多く、カルチャーセンターなど様々な選択肢があるため、地域の小さいエリアに縛られるのを嫌う人が多い。

現在試行錯誤の最中だが良い面も多く、地域支援事業が始まったときに、地域のことを皆で考えようということになった。民生委員が行っている見守りが行き渡らない地域においては、老人クラブも仲間のことは皆で見守るという活動につながった。

会員数は減っているが、住み慣れた地域で楽しく過ごすことを目標にして活動している。

委員：地域の支え合いと地域活動、資料3の地域支援事業と様々なメニューがあり、介護者教室など自治会や老人クラブを窓口として普及しているが、そのような組織がない地域はアプローチしにくい。地域の助け合いや支え合いを考える際にも、組織的なものが必要である。

会長：全体を見渡した議論をどこでするかだと思う。高齢者や老人クラブで、こども食堂などの活動をしている人もある。活動自体が変わらざるを得ない時代なので、その辺りをお互いに交流しながらやっていければと思う。

委員：今年になって新型コロナウイルス感染症によって、全国、全世界で利用者や介護者が影響を受けている。マスコミで、利用者が自粛して通所施設に来ない、介護職員

も仕事を制限したり辞めたりする人がいることで、事業所が廃業する恐れがあるということを見聞きしている。生駒市の場合はどうか。

先ほど、新しくできた介護老人保健施設の利用者が少ないという話があった。定期巡回・随時対応型訪問介護看護を今年度また整備するということだが、保険者として適正な運営の指導をお願いします。

委員：先ほど、新しい介護老人保健施設などができたものの、ニーズがそこまでいっていなかったため、見込みより少なかったということだった。そうであればよいのだが、定員に対する介護人材が足りないため受け入れられないのか、利用してほしいが認知度が低いからか。どちらか。

事務局：両方ある。人材確保に苦勞しているところもあれば、認知度が低く周知が必要という悩みを聞くところもある。両方の面を兼ね備えて、このような結果になっている。

委員：人材が不足しているのであれば、ニーズがあつて施設があるのに受け入れることができないということなので、考えなければならない。その事業所が努力するしかないが、準備万端整っているのに、周知不足ということなら、時間の経過や周知すれば解消できるかもしれない。事業量をどれだけ見込むかに関して、施設の定員だけで見込みがあると判断するのは違うと思う。

事務局：介護人材も不足していると聞いている。

委員：今は推測するしかないということか。

事務局：開設当初は人材がなかなか揃わず、正直なところ、しばらくの間全床稼働できないということが続いた。しかし、開設後半年近くになる頃には、ほとんどすべて揃い、全床稼働できるという報告をいただいた。現在は、なんとか基準通りの必要人材が揃っている。

委員：年間通すと、トータルで100%動いているわけではないものの、人員が揃ってからはかなりの稼働率になっているとなると、意味が変わってくる。

事務局：現時点では、ほぼ定員数一杯まで利用されている。

委員：今はしっかり見込んで問題ないということか。

事務局：現状では大丈夫である。また、事業所にアンケートを取ったところ、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が自粛されていたが、今は少しずつ戻りつつあると聞いている。幸い、現在事業所から経営がひっ迫して難しいという相談はない。どの事業所も何とかやれているという報告を受けている。定期巡回・随時対応型訪問介護看護についても、市としても利用率等指導していきたいと思う。

会長：新型コロナウイルス感染症の影響で、サービスのニーズ自体の縮小や、人と人とのつながりが希薄になって活動の低下があるため、介護保険計画をどう構えていくかにもつながっていく。そのようなことも含めて、従来の計画とは少し変わっていくように思う。

案件（３） 高齢者保健福祉計画及び第８期介護保険事業計画について

①生駒市の高齢者を取り巻く現状

②各種アンケート調査結果概要報告

- ・健康と暮らしの調査
- ・在宅介護実態調査
- ・介護サービス従事者、事業所調査
- ・在宅介護医療連携調査

資料４、５により説明

◎質問・意見なし

案件（４） 地域包括支援センター関係について

資料６により説明

◎質問・意見

委員：地域包括支援センターの職員が大変頑張っていることはよく分かっている。しかし、職員がよく変わり、若い職員に質問しても回答が返ってこないことがあると聞く。１人の職員の行動、態度が、地域包括支援センター全体の評価につながると思うため、市の指導をお願いする。また、介護保険の事業所を紹介する際に、同法人の事業所を紹介することが多いと聞いている。これについても、適切な指導をお願いする。

会長：他にご意見がないようなので、この案件については、私のほうで答申内容を充実、相談して、市長に提唱することでよいか。

（異議なし）

案件（５） その他

事務局：次回の生駒市介護保険運営協議会会議について

３ 開会

以上